

# 新聞を活用した教育について

## ～たかが新聞、されど新聞～

小山 茂喜（信州大学 学術研究院総合人間科学系）

### 1. 講習の概要

本講座は、信濃毎日新聞社の協力で、毎年信濃毎日新聞社本社で開講している。学習指導要領でも、新聞の活用が示され、教科書でも取り上げられていることから、受講者の内容に対する関心は高い。

まず、新聞に限らず、私たちにとって情報とは何か、そして、私たちは情報とどのように接しているか、さらに、主体的に判断し行動するという観点から、私たちは情報とどのように接していかなければならないを概観した。

続いて、新聞社を会場としていることから、受講者自らで情報がどのように作られているのかを、新聞社内見学をしながら取材体験をし、その取材内容をもとに、学習のまとめなどで活用してもらうよう、記事を作成するという演習を行った。

取材カード

	2階展示コーナー	5階編集局
だれ		
いつ		
どこ		
なに		
なぜ		
どのように		
どのくらい		

取材カードから、記事作成シートに記入する。

① 一番心に残っていることを書きましょう

② 二番目に心に残っていることを書きましょう

③ で考えたり、思ったことを書きましょう

心に残った理由を簡単に書く

[①～③までシートはあり、その3場面について、箇条書きで記入し、記事を書くもとを作りあげる。]

この作業は、新聞社が記者養成で行っている「伝える文章を書く」内容を、体験的に学んでもらい、文章を書くのが苦手という子供の指導に活かしてもらうことを目的としている。具体的には、指示に従い記事作成シートを完成させ、▽に書いた内容を、時事に即して「だれ」「いつ」「どこ」「なに」「なぜ」「どのように」の順番で、50字以内で書き、文章ができたなら、タイトル（見出し）を10字程度でつけ、記事を完成させる。

次に、信濃毎日新聞の紙面に載ったNIEの授業実践の中から、教科指導・特別活動・道徳・総合的な学習といった観点から、特徴的な内容を紹介した。この講座受講者の多くが、事前アンケートをみると、NIEとは何をすればよいのか、新聞を活用した授業とはどのような授業なのかという疑問を持って参加されているので、実践の形式はなく、新聞が素材でしかないということを理解してもらい、それぞれの実態に合わせて、受講者が授業実践してもら得るようなヒントを示すことにした。

最後は、新聞スクラップを行った。当日の新聞から、気になった記事を選び、気になった理由や記事に対する意見、さらには授業で扱うとしたら、どのような扱いを考えるかを、グループで発表し合うという演習を行った。

また、発表時間を一人2分、短くても長くても減点として、発表方法の演習も行った。

## 2. 課題

受講者からは、具体的な演習が盛り込まれていて、実際に教室に戻ってから、子供たちと実践するヒントを得ることができたという肯定的な評価が多い反面、短時間で様々な作業を行うので、じっくりと取り組むことができずに、消化不良になりがちなので、作業等を絞り込んで展開していただきたいという要望も多く寄せられている。

同時に、新聞社との連携で講座内容を編成していることから、NIEというより、新聞教育という色彩が強くなってしまい、NIEに関心のある受講者にとってみると、物足りなさというか期待外れの感が多少あるようである。

受講者が、取材し記事を作成するという作業は、教材研究や学習のまとめの指導と深くつながる部分もあるので、授業力向上や情報教育の充実という観点からは、有効な内容といえることから、時間配分等今後工夫し、改善していく余地はある。

NIEは、Newspaper In Education というように、新聞そのものを教育活動に活用するというもので、新聞を読むことをきっかけに、学習者が自ら問いを持ち、学習を深化させていくことが重要なことから、教育方法の立場からの内容の再編成も視野に入れ、講座を開講していくことも今後考えていく必要があるといえる。